

## 8月教育委員会会議

日時：令和7年8月27日（水） 午後2時00分

場所：山口県教育庁教育委員会室

（公開）

教 育 長	<p>それでは、ただいまより令和7年8月の教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>最初に本日の署名委員の指名を行います。</p> <p>伊藤委員と廣兼委員、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは本日の議題の審議に入る前に、審議の公開の可否について決定したいと思います。本日の議題のうち、議案第2号、報告事項4、協議事項1、協議事項2は、教育行政の公正又は円滑な運営に支障を生じるおそれがあることから、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項」の規定に基づき、非公開とすることが望ましいと考えますが、いかがでしょうか。</p>
全 委 員	承 認
教 育 長	それでは、議案第2号、報告事項4、協議事項1、協議事項2については非公開で審議することといたします。
教 育 長	それでは、議案の審議に入りたいと思います。 議案第1号について、教育政策課から説明をお願いします。
教育政策課長	<p>議案第1号「山口県教育委員会表彰規則による表彰について」御説明いたします。議案書の2ページを御覧ください。</p> <p>8月7日に柳井市立柳北小学校の河井 悟 校長が早期退職されました。これに伴いまして、表彰規則による「永年その職務に精勤した者」であるとして、柳井市教育委員会から教育功労者表彰の内申がございました。</p> <p>通常、早期退職に伴う表彰に係る永年精勤者は勤務年数が25年以上の者となっておりまして、内申の状況と併せて、表彰の基準を満たすものでございました。</p> <p>急な退職に対応し、これまでの御功績に報いるためにも、速やかに表彰する必要がございましたことから、「教育長に対する事務の委任等に関する規則」第4条第1項の規定に基づき、教育長が臨時に代理して、8月7日付けで河井 悟 校長を表彰いたしましたので、御報告し、承認をいただきたく、お諮り申し上げます。</p>
教 育 長	ただいま教育政策課から議案第1号について説明がありましたが、意見、質問はありますか。
教 育 長	議案第1号について、承認することとしてよろしいですか。
全 委 員	承 認

教 育 長	議案第 1 号を承認いたします。
教 育 長	それでは、報告事項 1 について、教職員課から説明をお願いします。
教 職 員 課 長	<p>去る 8 月 8 日に発表いたしました、令和 8 年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験の選考結果につきまして、御報告します。資料は 3 ページです。</p> <p>まず 1 - (1) の表をご覧ください。アは、令和 8 年度採用の結果をお示ししております。下方のイには、一昨年度から実施しております令和 9 ・ 10 年度採用の教職チャレンジサポート特別選考の結果をお示ししています。表の右上にありますように、2 種類の括弧内は、昨年度の数と、第二志願者を含む数を、それぞれ示しています。</p> <p>それでは、ア、令和 8 年度採用の表の一番下の「障害者を対象とした選考を含めた合計」の欄をご覧ください。令和 8 年度採用予定となる採用試験の志願者数は、一番左の列の 953 人で、このうち④の列にあるように 630 人が第二次試験を受験し、401 人を名簿登載予定者としたところです。また、表の一番右の列にお示ししているとおり「最終倍率」は、2.2 倍となりました。この最終倍率については、①の「第一次試験免除者数 152」と②の「第一次試験受験者数 735」を合計した値を⑤の「登載予定者数 401」で割り、算出しております。イの令和 9 ・ 10 年度採用となる教職チャレンジサポート特別選考においては、12 人の志願があり、選考の結果、4 人を名簿登載予定者としたところです。</p> <p>次に、4 ページの (2) から (6) の表は、各特別選考の状況を示しており、先ほど御説明した (1) の表の数値の内数となっています。5 ページの表では、中学校、高等学校、特別支援学校中学部及び高等部について、教科や科目ごとの名簿登載予定者数や倍率を、お示しております。</p> <p>なお、次年度の採用試験から自己推薦特別選考を新設することとしています。この特別選考は、第二次試験不合格者の一部を対象に、県教委が提供する教材等を活用し、自己研鑽に努めた者を第一次試験免除とする新制度です。</p> <p>県教委といたしましては、今後も、教員採用試験の改善を重ね、志願者の拡大や教員の確保に努めてまいります。</p> <p>以上で、御報告を終わります。</p>
教 育 長	ただいま教職員課から報告事項 1 について説明がありましたが、意見、質問はありますか。
伊 藤 委 員	教職チャレンジサポート特別選考の状況ですが、この制度は、私はとても魅力的で興味深く思っています。教員志願者にとっては、非常にありがたい制度で、また、先ほど申しましたように魅力的なチャンスだと思います。また、選考も、試験会場を東京会場・関西会場・山口会場等と、とても配慮されていますが、志願者数がちょっと減少していくまして、この制度が認知されていないのでしょうか。私はとても山口県がアイデアを出されて、これから職員数が増えてくれたらいい

	<p>いなというふうなお願いがこもったチャレンジではないかと思うんですけども、志願者数の減少要因を教えていただけたらと思います。</p> <p>教職員課長 ご指摘のように、この教職チャレンジサポートについては、初年度、かなり衝撃的なデビューを飾りまして、募集に対してかなりの倍率を得たところでございます。今年3年目となりまして、倍率の方が少し下がってきてるのは事実でございます。いろいろ要因はあると思いますが、1年目の周知は、メディア等にも取り上げていただいたところで注目を浴びたところです。我々のこの取り組みについては、周知はしているのですけども、やはり、そういう打ち出しの部分では初年度に比べて少し劣ってる部分があるかと思います。また、一方その1年目にかなりの高倍率であったということから逆に受験者もそこを敬遠するところも、否めない部分があるのかなというのは感じところでございます。ただ、本県の特色のある取り組みでありますので、この制度については、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。また現職を持たれながら、勉学を並行してされるというところで、そのあたりのところ、なかなか次のステージへの思い切って決断をするのがなかなか難しいという方も、実際やっている方と一緒に接する中で感じているところではございます。こちらの制度については、しっかりとまた、改善も含めて、検討していきたいと思います。</p> <p>和泉委員 今年度山口県の採用試験は全国に先駆けて、今回の基準日ですか、全国的にも、あと数県しかなかったと思うんですけど、一番最初にやられた県ということで、お試し受験みたいな受験生がもっと増えるのかなという思いもあったんですが、あまりそういうことではなくて、固定層というか、本当に山口県で先生になりたい受験生が集まって受験して、ちょっと人数が減ったかもしれませんが他県に比べるとこれまで通り非常にいい受験生、採用ができたんじゃないかなというふうに喜んでおります。ただちょっと心配なのは毎年そうなんですけども学校現場の方ではどうしても、先生が足りないと非常勤ということで、苦労されてるところも多いと思いますので、名簿登載は確定したとしても、今後、辞退者も多少は出てくるんじゃないかなと思うんですが、そういったところも含めて学校現場が困らないような手当等もこれからまた進めていただければと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>教職員課長 先ほど、和泉委員から振り返っていただきましたように、本県も、一番早い日程で行いました。今年度実施した採用試験におきましては、先ほど会場のことも仰っていただきましたけども、東京会場・関西会場・福岡会場か山口会場でやっておりますが、本県、今年度の採用試験ですね、東京会場と、関西会場においては、新卒である大学生の一般の選考は行いませんでした。これを行いますと、学生が他県と併願をするような形での、お試し受験的な形で受けたはいいけども、受かっても来ないっていうのがたくさん来そうな状況もありましたので、その辺りを回避するために東京、関西においては、一般選考は行いませんでした。そのあたりも功を奏しているのかなと思います。</p>
--	--

	<p>方、早めたことで、例年よりも少しではありますけども教育学部以外の学生さんの受験が少し増加している傾向はございました。文科省が早期化するにあたって、教育学部以外の学生が、他の業種との進路選択の中で、そっちを選んでいくんじゃないかというところについての、対策として、早期化というのを打ち出しておりますので、そのあたりの効果を少し持っております。また来年の4月に向けて、欠員等を生じないように、引き続き人材確保に努めてまいりたいと思います。</p>
教 育 長	<p>それでは、報告事項1については、以上のとおりとします。</p>
教 育 長	<p>次に、報告事項2について、義務教育課から説明をお願いします。</p>
義 務 教 育 課 長	<p>令和7年度全国学力・学習状況調査の山口県の結果について、御報告します。お配りした資料「令和7年度全国学力・学習状況調査結果について」に基づいて説明します。資料の8ページを御覧ください。</p> <p>本調査は、4月17日の木曜日に悉皆調査として実施されたもので、本県公立学校における調査実施校数及び児童生徒数、実施された調査等は、資料に示しているとおりです。</p> <p>それでは、結果概要について御説明します。9ページをお開きください。</p> <p>教科に関する調査全体の結果については、小学校では、国語及び理科は全国平均を上回り、算数は全国平均と同程度という結果でした。中学校では、国語は全国平均を上回り、数学及び理科は全国平均と同程度という結果でした。</p> <p>県の平均正答率については、小学校国語は68、算数は58などと、国から提供された数値をお示ししています。なお、中学校理科の調査は、一人一台端末によるC B Tで実施され、その結果は、IRTスコアという500を基準とした数値で示されています。今回、県のスコアは503と、全国と同程度の結果でした。10ページには、過去3年間の調査の平均正答数と平均正答率を掲載しています。</p> <p>続いて、11ページから21ページにかけては、領域別平均正答率や正答数分布、設問別正答率を示しています。これらの資料は、児童生徒の学習状況を多面的に捉え、成果や課題の把握、改善に生かせるものです。</p> <p>ここからは、教科ごとに見られた「成果」と「課題」について御説明します。</p> <p>まずは、小学校についてです。22ページを御覧ください。国語では、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」など、記述式で解答する全ての問題で全国平均を上回りました。一方、「文章と図表を結びつけるなどして必要な情報を見つけること」などは、全国平均を下回り、課題が見られました。24ページの算数では「問題解決に必要な数量を見いだすこと」などに成果が見られましたが、「計算の仕方を統合的・発展的に考察すること」などには課題が見られました。26ページの理科では、「電磁石の強さとコイルの巻き数の関係について理解すること」などに成果が見られる一方、「身の回りの金属の性質について理解すること」などは、正答率が低く課題が</p>

見られます。

続いて、中学校についてです。28ページを御覧ください。国語では、「集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること」などに成果が見られ、「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること」などには課題が見られました。30ページの数学では、「確率について理解すること」などに成果が見られましたが、課題としては、「統合的・発展的に考えること」が求められる問題が挙げられます。同様の課題は小学校算数でも見られ、小中を通じた共通の課題となっています。32ページの理科では、「探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現すること」などに成果が見られる一方、「小学校で学習した知識及び技能を関連付けて分析し、解釈すること」などに課題が見られました。

続いて、34ページからの質問調査の結果について説明します。

ここでは、全国平均との比較や経年比較を通して、よかつた項目や課題が見られた項目を取り上げます。

まず、児童生徒に対して行われた児童生徒質問調査の結果についてです。

「よかつた項目」としては、36ページの、子どもの意識に関する項目「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあると肯定的に回答した児童生徒の割合」、38ページの、ICTに関する項目「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日活用すると回答した児童生徒の割合」、40ページ下側の、授業に関する項目「自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたと肯定的に回答した児童生徒の割合」などが挙げられます。

一方、課題が見られた項目として、37ページ上側の学習習慣に関する項目「自分で学び方を考え、工夫することができていると回答した児童生徒の割合」は、小・中学校のいずれも全国平均を下回り、20%台にとどまっており、改善が必要です。

次に、43ページを御覧ください。各校の校長に対して行われた学校質問調査の結果についてです。

「よかつた項目」としては、43ページ下側の、生徒指導に関する項目「児童生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行っている小・中学校の割合」、44ページ下側の、学習習慣に関する項目「児童生徒の姿や地域の現状に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している小・中学校の割合」、46ページ下側の、学習指導に関する項目「学習指導において、児童生徒一人一人に応じた学習課題を工夫した小・中学校の割合」などが挙げられます。

しかしながら、46ページ上側の、学習指導に関する項目「児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている小・中学校の割合」については、前年度を下回っており、児童生徒が主体的に学習に取り組むことを促す授業づくりが求められます。

以上が、質問調査の結果の概要です。

最後に、学力向上に向けた今後の取組についてです。55ページを御覧ください。

県教育委員会、市町教育委員会、学校が連携して、「やまぐち型地

	<p>域連携教育」による家庭や地域との連携・協働を基盤とし、「学校の組織力の充実」、「教員の授業力の向上」、「学校・家庭・地域の連携力の強化」の三つの視点から取組を推進するとともに、検証改善委員会からの客観的評価を生かし、検証改善サイクルに取り組みます。また、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の更なる充実を図り、誰一人取り残すことのない学びを保障するとともに、家庭と学校の学びの好循環を創出し、児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上に向けた取組を推進していきます。特に、重点的に取り組む内容については、①～③の枠内にお示ししております。</p> <p>以上で、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果についての報告を終わります。</p> <p>教 育 長 ただいま義務教育課から報告事項2について説明がありましたが、意見、質問はありますか。</p> <p>伊 藤 委 員 全国学力・学習状況調査結果について、山口県での結果は、全国の平均をほぼ上回っているということで、山口県の先生方の御努力に本当に感謝申し上げます。その中で、私が教育委員になって、私も端くれとして、教育の一端を担わされているので、身近に保護者の方が多いということから、この調査結果が、どう保護者に生かされているかということを小中学生の保護者の方に聞いてきたんですけども、学校によって対応が、ものすごく異なっていることに気付きました。児童生徒の学びの状況を、家庭につなげることから、学力の向上がさらに期待できると私は思っておりますので、保護者への情報提供のあり方は、各々の学校によって違うのか、それとも市によって違うのか、その点を教えていただきたいと思っております。</p> <p>義 務 教 育 課 長 今、お示しをいただいたとおりですが、各市町教委の取組によって異なるということです。それから、学校だより等で周知されるなど、内容についても各学校の裁量となっております。保護者についても、児童生徒についても、結果について周知をするような取組は、各学校で必ず行われていると把握しております。</p> <p>和 泉 委 員 今、伊藤委員が言われた家庭との関係というのは、学力向上にとって非常に重要なところかなというふうに、私も思っております。この全国学力テストは毎年行われているわけですが、去年の分析で出されていた中に、家庭の環境とその成績に、かなり相関があるというようなことが言われていたと思います。ですので、保護者との連携・協力というのは、非常に重要なと思います。例えば、市町の教育委員会、学校さんが、それぞれ独自で頑張っておられるということもそうなんですが、県教育委員会の方でも、この分析を1枚にまとめたとか、保護者が見やすいようなものを作って各学校に示して、こういうもので保護者との連携を図ってくださいと示すような取組もあってもいいのかなというふうに思ったところです。</p> <p>それと、55ページの真ん中に、誤答分析に基づいた課題の焦点化ということが挙げられておりますが、誤答がどこにあるのかということで、私も大学の方ですが、中学校理科の教員をやっていますので、</p>
--	---

	<p>生成A Iの方で、「中学校の理科の誤答しやすいところを10個あげてください」と言ったら、生成A Iが10個上げてきて、どういった観点から間違いやすいのか、正解はどうなのかと出してきて、すぐ分かるんだなと思ったら、そのあとに生成A Iの方で「これに基づいた授業案を提案できますけどどうしますか。」と聞かれたんですよね。</p> <p>「作ってください。」と言ったら簡単な課題解決からその授業の流れに沿った指導案を出してきて、「これに沿ったワークシートもできますけどどうしますか。」と聞かれて、最後は「この板書のパワーポイントのファイルもできますけど、作りますか。」と聞いてきてくれて、すごいなと思ったところです。県教育委員会でも、こういったところが間違いやすいんだというところを整理されたり、各学校さんでもやられたりしていますけれども、そういったところを県教育委員会が音頭を取りながら、一つひとつ間違いやすいところを潰していくといった取組もあっていいのかなと思っております。A Iの活用で、そういったところを、現場の負担も軽減するような取組もあっていいのかなと思った次第です。</p> <p>義務教育課長</p> <p>今、お示しいただいたとおり、学校の学びと家庭の学びとの好循環の創出というのは、重要だと捉えています。</p> <p>県教育委員会から各市町教育委員会・学校に、何らかのアプローチがないか、とのお尋ねだったかと思いますが、誤答分析等をこちらでいたしまして、各市町教育委員会に提供はしております。</p> <p>それから、現在行っている最中ですが、各市町教育委員会と、学力向上の結果について合同研修会を実施していまして、この度の結果については、詳細に、この部分が課題でありました、成果でありました、ということについて、各市町教育委員会と共有しているところです。当然、各市町教育委員会から各学校へ周知してまいりますので、その部分はまた家庭に発信されるように、こちらからもお願いしてまいりたいと思っております。加えて、今、全公立中学校に生成A Iを今年から使えるようにしておりますので、こちらの部分においても、先ほどお示しいただいたとおり、誤答についての分析に活用できないかなと、今思っているところですので、こちらについてもまた情報提供を図ってまいります。</p> <p>和泉委員</p> <p>ぜひ進めていっていただければと思います。よろしくお願ひいたします。</p> <p>教育長</p> <p>それでは、報告事項2については、以上のとおりとします。</p> <p>教育長</p> <p>次に、報告事項3について、県立高校再編整備推進室から説明をお願いします。</p> <p>県立高校再編整備推進室次長</p> <p>令和8年度山口県立中学校及び中等教育学校入学者選抜実施要領及び入学者募集要項並びに選考検査作成方針についてです。</p> <p>入学者選抜に関する大綱につきましては、4月の教育委員会会議で御報告し、公表しておりますが、教育委員の皆様のお手元にお配りしております3点のもの「山口県立中学校及び中等教育学校入学者選抜</p>
--	--

実施要領」「入学者募集要項」並びに「選考検査問題作成方針」を去る8月5日に公表いたしましたので、御報告いたします。

資料の56ページをお開きください。各要領等の概要を、「1」の枠囲みの中にお示しをしております。

まず、実施要領につきましては、「2」にその要点をまとめておりますが、応募資格、入学定員、日程などを示したものです。なお、面接につきましては、57ページ「(5)イ」にありますように、各校で検討いたしました結果、今年度実施する選抜では、すべて個人面接とし、集団面接は実施しないことといたしました。

次に、募集要項につきましては、志願者が出願する際に必要となる事項をまとめたものであり、57ページ中段の「3」に記載していますが、各校で開催いたします「入学者選抜説明会」において、受検願書と併せて保護者等に配布することとしております。

最後に、選考検査問題作成方針についてですが、これは「記述式の課題1及び記述式の課題2」の問題作成に当たっての方針を定めたものです。

57ページの「4」に記載していますが、「資料をもとに考えたこと等を問う内容とする。」ことなどとしています。

以上、御報告申し上げます。

教 育 長 ただいま県立高校再編整備推進室から報告事項3について説明がありましたが、意見、質問はありますか。

教 育 長 それでは、報告事項3については、以上のとおりとします。

教 育 長 次に、報告事項5について、学校安全・体育課から説明をお願いします。

学校安全・体育課長 令和7年度全国高等学校総合体育大会について御報告します。

連日熱中症警戒アラートが発表されるなど、今年も猛暑のなかでの大会となりましたが、開催市実行委員会や医療関係機関の御尽力もあり、大きな事故もなく、無事に全日程を終えることができました。また、教育委員の皆様にも競技をご観覧いただき、ご声援をいただきました。出場した選手や会場内で運営に携わる高校生を実際に見ていただけたことは大変意義深かったと思っております。ありがとうございました。

なお、大会の運営状況等につきましては、各競技種目からの報告を整理したうえで、改めて御報告させていただくこととし、本日は県内開催競技種目の結果を中心に報告させていただきます。

資料38ページを御覧ください。県内では5市で6競技種目が開催されました。「アーチェリー」「バドミントン」「水球」「卓球」の4競技で入賞しております。特に大きな話題となった「バドミントン」では柳井商工高校女子が学校対抗5連覇、全国選抜大会と合わせ全国大会10連覇を達成したほか、シングルス、ダブルスでも優勝し、初の完全制覇を成し遂げております。また、「卓球」では全国大会上位常連の野田学園男子が8度目の決勝進出で悲願の日本一を達成した他、岩国商業女子も5位に入賞しております。「アーチェリー」

	<p>では山口県女子として初めての入賞を果たすなど、西京高校女子が活躍し、同校は「水球」でも3位入賞を果たしております。</p> <p>さらには、上位入賞校だけではなく、開催県枠で出場した「卓球」女子の萩光塩学院や「バドミントン」女子の桜ヶ丘の活躍は大会を大いに盛り上げてくれました。</p> <p>県外開催種目においても、「弓道」女子で宇部フロンティア大学付属香川高校が初優勝、「テニス」女子で野田学園が3年ぶり3回目の優勝、「ヨット」女子で光高校が3年連続4回目の優勝となっており、地元開催も含め、5競技で学校対抗の優勝が生まれるなど、地元高校生が大活躍をしてくれたと思っております。</p> <p>今後はこうした高校生が一人でも多く、山口県を代表する選手としてさらなる大きな舞台で活躍することを期待しているところであります。</p> <p>以上、簡単ではございますが高校総体の報告とさせていただきます。</p>
教 育 長	ただいま学校安全・体育課から報告事項5について説明がありました が、意見、質問はありますか。
和 泉 委 員	活躍した生徒さんはもちろんですけども、大会御準備いただいた先生方、関係者の皆様に改めて、私の方からも感謝申し上げたいと思 います。準備は昨年、その前から、進めていた方も多いかと思います が、期間中も熱中症や、また大雨もありましたが無事、終わられたと いう事で、教育委員の皆さんも応援に行かしていただいて、非常に感 動をいただきました。改めまして、関係の皆様方に感謝して御礼申し 上げたいと思います。どうもありがとうございました。
教 育 長	私からも一言なんですけれども、競技に参加された選手の皆さんは 当然のことですが、高校生活動で支える立場から各会場いろんな支援 をしていただいた高校生の皆さんにも本当に感謝を申し上げたいと思 っておりまし、私自身、生まれて初めて優勝する場面を見ることが できまして、卓球や女子のバトミントンなど、本当に感動いたしました。 選手の皆さんのお顔を拝見できて本当に良かったと思っております。 どうもありがとうございました。
教 育 長	それでは、報告事項5については、以上のとおりとします。
教 育 長	次に、次回の教育委員会会議の日程について、教育政策課から説明 をお願いします。
教育政策課長	次回の教育委員会会議は、令和7年9月10日（水） 午前10時00分を予定しております。よろしくお願ひします。